

新しいミサの式次第と奉献文について

2022年4月4日
大司教 前田万葉

今年の待降節第1主日(11月27日)より適用されます新しいミサ式次第と奉献文について、各小教区・共同体などで今後周知・練習などが行われていくことと思います。この式次第と奉献文の中には選択可能な箇所が多くありますが、選択肢の中からどれを選択するかは、典礼暦やそれぞれの状況に合わせて、現場の責任者が判断してください。

しかしながら、教区や地区・ブロックなど小教区や共同体を越えて行われるミサにおいては、会衆の応答において混乱することがあります。そのような事態を避けるために、教区ミサにおいては、会衆が答える部分を伴う選択に関しては、原則として以下の通りとすることをお知らせしておきますので、ご了解ください。(数字は『新しい「ミサの式次第と第一～第四奉献文」の変更箇所』<2021年10月20日カトリック中央協議会発行>の該当ページ)。

- ▶ **回心の祈り**：第一形式(18-19)、会衆「アーメン」。
- ▶ **いつくしみの賛歌(キリエ)**：第一形式(24)、会衆「主よ、いつくしみをわたしたちに」……。
- ▶ **信仰宣言(29-31)**：四旬節と復活節中は使徒信条、それ以外はニケア・コンスタンチノーブル信条。
- ▶ **奉献文中「信仰の神秘」への応唱(43、50、56、64)**：会衆「主よ、あなたの死を告げ知らせ、復活をほめたたえます。再び来られるときまで」。
- ▶ **拝領前の信仰告白(71)**：会衆「主よ、わたしはあなたをお迎えするにふさわしい者ではありません。おことばをいただくだけで救われます」。
- ▶ **司教が司式するミサでの派遣の祝福(74)**：

司教「主は皆さんとともに」。
会衆「またあなたとともに」。
司教「主のみ名がいつもたたえられますように」。
会衆「いまよりとこしえに」。
司教「主のみ名はわたしたちの助け」。
会衆「主は天地の造り主」。
司教「全能の神……」。
会衆「アーメン」。



「信仰の時間」

ABC ラジオ(朝日放送)
毎週日曜日 5:50～6:00AM

4月担当：エリック・パウチスタ・デ・グスマン 神父(梅田ブロック)

主の復活 (17日放送分より)

——「なぜ、生きておられる方を死者の中に捜すのか。あの方は、ここにはおられない。復活なさったのだ」。(ルカによる福音 24 章 1 節～ 12 節参照)

皆さん、今日は主のご復活おめでとうございます！「復活」は英語で「イースター」といいます。教会では、この日に「イースター・エッグ(復活の卵)」が良く配られます。イースター・エッグは、墓の中から出てきた、復活したイエスのイメージを表します。皆さんはイースター・エッグを誰かにもらったことはありますか？

さて、先週は聖週間で「受難の主日」から始まり、イエスの受難と死を思い起こす一週間でした。

イエスはわたしたちの救いのために十字架上で自分のいのちをささげてくださいました。イエスのお母さんであるマリアと、イエスの仲間たちとイエスのことを信じていた人びとにとって、イエスの死はとても悲しい出来事でした。

しかし、イエスのストーリーは、イエスの死で終わりません。イエスは金曜日のあの日に亡くなり、お墓に葬られましたが、三日目に死者の中から復活されました。その三日目の日は、日曜日の今日、「主の復活の日」と呼ばれています。わたしたちのためにいのちをささげてくださいましたイエスは、再び生きるようになりました。今も生きておられます。イエスの復活の出来事は、それを目撃した人び



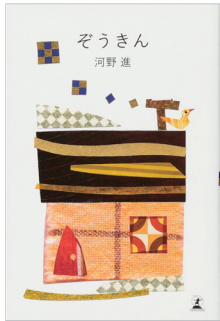
ブラザー阿部真理から
この二冊

司牧者がリレー形式で若者たちにぜひ読んでもらいたい書籍を紹介し、青年たちの読書感想文を掲載する連載。今回は、サンパウロ大阪宣教センターのブラザー阿部真理(聖パウロ修道会)が担当。

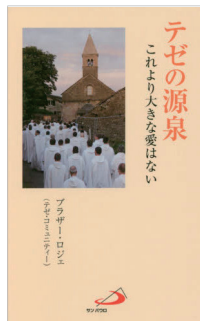


この本の著者、河野進さんは「岡山の良寛さん」といわれた素晴らしい牧師さんです。30年以上も前に、彼の本に出会いました。彼は何冊か詩集を出していたのですが、『ぞうきん』はその一冊(中古本)で、当時すでに絶版になっていた本でした。何冊かを読み、心がすっきりし、心があたたかくなったのを覚えています。

『ぞうきん』(河野進著、幻冬舎、943円(税込))



『テゼの源泉——これより大きな愛はない』(ブラザー・ロジェ著、サンパウロ、990円(税込))



神さまの心、思いを、そつと手のひらで包んだような詩集です。シスター渡辺和子さんの大切な友人であり、彼女がぜひ再版をと呼びかけ、再版されました。今は私のお勧めのベスト3に入ります。疲れた時に、ぜひ一ページ読んでみてください。どんな栄養剤よりも効果があること間違いなしです。

1940年にフランスで始まったこの『テゼの集い』には、今や全世界から若者たちが祈りを求めて集まっています。この本には、宗教を越えたこの祈りの集いの創始者であるブラザー・ロジェの精神と、その集いで歌われる歌を支えている言葉の数々が並べられています。私たちの生活の精神的な支えとなり、静けさの中で語られる言葉の数々に、ぜひ出会ってください。短いフレーズに、光を見出していただければ嬉しいのです。私も大切にして、皆さんにお薦めしている本です。

とが語って、証明してくださいました。今日読まれた福音のとおりです。

イエスの復活は、わたしたち人間にとって、大きな喜びです。わたしたちに希望を与えてくれる出来事です。今まで、死と死ぬことを恐れていた人間は、人が死んでも、再び生きることができると悟ることができます。イエスを信じた人びとは皆、終わりの日に、イエスと同じように復活できます。このことに希望をおき、復活に日々を向けて過ごすことができます。わたしたちに、神様を愛し、隣人を自分のように愛することを教えてくださいましたイエスのことを信じることができます。

カトリック教会では、イエスの復活をお祝いするために、盛大な式を毎年行っています。「復活の徹夜祭」とは、聖週間の土曜日、聖土曜日の夜に行うミサのことです。このミサの中で、火とろうそくと水の祝福をします。祝福された火から、ろうそくを灯すのには、「罪と死に包まれていた世界は、真の光であるイエス・キリストに照らされた」という意味があります。

水はこの復活徹夜祭のミサの中で洗礼を受ける人びとの頭に注がれるために祝福します。水には、いのちを与えるイメージとともに、けがれを洗い清めるイメージもあり、古代から洗礼のしるしになってきました。

わたしたちを救うために、十字架につけられて、いのちをささげてくださいましたイエスは再び生きており、これを信じる人びとは洗礼を受けます。洗礼を受けて、神の子どもたちとなり、イエス・キリストを信じる「キリスト者」「カトリック信者」となります。洗礼を受けた教会の共同体の一員にもなります。

イエスの復活は、まことに喜び——希望・新しいいのちを与える、喜びの日です。このことを毎週、日曜日に「感謝の祭儀」というミサの中で思い起こし、ともにお祝いしているのです。

